

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	175000843		
法人名	株式会社 ふれやか		
事業所名	グループホームふれやか 癒楽		
所在地	北見市春光町1丁目31-1(電話・FAX)0157-61-5666		
自己評価作成日	H30年9月	評価結果市町村受理日	平成30年11月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	hlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&Jigvoysocd=0175000843-008
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	平成30年10月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

H17年癒楽開設13年目に成ります。12年間住まわれている入居者様2名、10年目に成られた方1名 認知症状は進んで来ているも、大きな病気にせずお元気に生活されています。6月には外食(くるる寿司)へ、デイバス使用して無事外食行事を行う事が出来ました。皆さん大好きなお寿司、お腹一杯召し上がられました。今年は、ひばり合唱団への参加、季節感を感じる様な室内ディスプレイ、行事ごと、お誕生会、年2回の親睦会は、入居者様、御家族様、近隣の方スタッフで楽しんで行っております。癒楽は口腔ケアに力を入れて居ます。起床時、食後に口腔ケア、手洗いをし、食前には嚥下訓練を行う等継続し、美味しお食事を召し上がって頂き且つ、誤嚥性肺炎を予防しています。昨年12月末2名の方急性胃腸炎で入院されましたが、以後、感染症、インフルエンザ、罹患される方は居りませんでした。来客、往診、訪問看護に来られた皆さまには必ず手洗い、うがいをして頂き 必要に応じてマスク、着用し感染防止に努めて居ります。年々自主的に何かしたいと希望される入居者さん減って居りますが、スタッフ声かけにて、トランプ、歌声、ラジオ体操、塗り絵をして頂く又リラクゼーション観賞等取り入れ、ゆっくりと過ごして頂く様心がけて居ります

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム癒楽は、平成17年北見市の東部地区に、株式会社ふれやかにより1ユニット9名の定員で開設されています。グループホーム癒楽は開設時からふれやか総理念と癒楽理念を掲げ、全体ミーティングの中で確認や唱和を行い実現に向け取り組んでいます。ふれあいを大切に「なごやか」「おだやか」「にぎやか」なグループホームを目指し「笑顔」をキーワードにその人がその人らしくゆったり、ゆったり、過ごせるよう努めています。近年年齢が高くなり、外出行動や行事、家事がおっくうになっている利用者が増えている傾向に有るようですが、極力その利用者の意向と家族の意向を尊重しながら身体能力が落ちないようにしています。また、本年度から新たに身体拘束廃止委員会を設置して多くの提案を行っており身体拘束の恐れや原因となる様な物を特定しそれを除去する為の介護の見直しをし、基礎となる介護記録に於いてはSOAP式を用いて詳細な記録を取り利用者の状況、状態を把握して、意向が反映できるよう取り組み、記憶は消えるが、記録は残ると会議でも管理者の指導があり、事業所全員で取り組んでいます。利用者は居間で寛ぐことが多く、和やかな雰囲気でも過ごす事が出来ています。グループに保健師がおり、看護資格のある管理者により健康管理や緊急時の対応等安心感があり家族からも信頼を得ている事業所となっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、職員は理念を共有し、入居者さん一人一人に声かけし毎日ゆっくり落ち着いた生活が送れる様支援しています。	開設時からの、ふれやか総合理念、癒楽理念を玄関、ホール、事務室等に掲示し会議で話し合いや唱和しながら共有して実践に取り組んでいます。とくに、「皆さんの笑顔」それが私たちの喜びですと、楽しく生活できるよう支援しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会、地域との繋がりを大切に、町内会回覧板にて情報得て、緊急時連絡網配布し協力を得て居ります支援を行った。	開設時より町内会に加入しています。緊急時の連絡網への協力や年4回、回覧板を活用させて頂き、癒楽だよりを掲載してグループホームの情報発信と協力依頼を行い理解を得れるよう取り組んでいます。また近隣中学校から教育実習で一年生を受け入れており認知症の理解が進むよう努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年小泉中学校1学年の介護学習の受け入れを行いグループホームにて認知症の人への理解や支援、日常生活等見て頂いています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の職員、包括支援センター、町内会、民生委員さん、ご家族さんの参加を頂き、2ヶ月に1回会議を行い、活動報告、事故報告等報告し、皆さんの意見を参考にサービスの向上に努めて居ります。	運営推進会議は概ね2か月に一度、利用者家族、町内会役員、行政担当者、高齢者支援センター職員等の出席を得て開催し、事業所の現状、課題等を議題に質問、意見を得て運営に生かしています。レジメは管理者が詳細に作成し出席者がすぐに理解できるようにしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護福祉課より研修のお知らせ、空床情報、運営推進会議の出席を頂き協力頂いて居ります。	市には現況報告書で詳細な運営状況を報告しています。また、市担当者とは研修、入居状況、災害対策等の情報を定期的に電話、メール等で受けています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアを実践しています。今年身体拘束廃止委員会を設立し、施設長、ケアマネ、保健師、管理者、スタッフにて3カ月に1回会議を開き内容をスタッフ全員が把握できるようミーティング内で報告し、ケアに反映しています。	身体拘束未実施減算の施行に伴い今まで設置していませんでした身体拘束廃止委員会を立ち上げグループ全体で、廃止に向けて取り組んでいます。これまでも内部研修やミーティングで不適切な言動等を取り上げ身体拘束やそれにつながる行為が行われないように努めていましたが改めて身体拘束のない介護を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より身体的、心理的、言葉の虐待を行わないケアを日常的に実践しておりますが不適切な対応の場合はその場でスタッフに伝え改善する様努めて居ります。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市民後見人利用者1名、権利擁護利用者1名居ります。市民後見人担当者さんは月1回面会頂き、都度生活状況の報告、利用者さんともコミュニケーションが取れていると思います。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の契約の際、重要事項の説明を充分行い、理解、納得頂いて居ります。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的、運営推進会議に意見、苦情があった際はスタッフミーティングで話し合い、解決策を打ち出しご家族様へ報告しています。意見箱も有りますが、殆ど活用されておりません。	利用者や家族とは日常的に会話をを行いその中から意見や要望を把握するよう努めています。意見箱を設置してありますが使われたことはありません。また、家族全体での懇親会を年2回開催し年4回通信の発行で様子を知らせ、何でも言える信頼関係を構築に努めています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの意見、提案は日常的に聞き入れ、内容によっては、全体ミーティング、施設長に挙げるなどして結果スタッフへ報告しています。	職員とは日常の勤務時や毎月のミーティングの中で意見や提案を聞くようにしており、実現できるよう母体企業に報告し、結果を伝えています。また、毎年評価を行いその中で一人ひとりの努力や状況を把握し意欲向上に繋げています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の能力評価を行い個々の努力や勤務状況に応じて時給UPに繋げやりがいを持って働ける環境作りの努めています。又、シフトに関してはスタッフ個々の身体状況等考慮し、休み希望の受け入れもして作成している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修に参加促し、終了後は報告書提出して貰い、送り講習を行い互いに知識の向上に努めていますが外部研修は中々参加出来て居ないのが現状です。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修やひばり合唱団での交流する機会があり、活動を通じて相互意見交換する等、知り得た良い情報はホームに持ち帰り、スタッフと検討した上でサービスの向上に努めています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面会時にご本人の様子、知り得た情報を細かくスタッフに提示し、不安な事、要望等に耳を傾け安心してホームで生活出来る様関係作りを努めて居ます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からの困っている事、要望等細かく情報頂き、入居後面会時、モニタリングの際、日常の様子、身体的、精神的な面をお伝えし常に相談しながら良い関係作りを努めて居ます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族から必要としている支援を見極めサービスの提供をしています。訪問歯科、訪問看護、訪問理美容、クリーニング委託など預かり金から支払い代行、買物代行等希望に応じて行って居ます。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事、出来ない事を見極め出来るだけ色々な事に参加して頂き、ともに生活をする者同士の関係を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何時でも気軽に面会に来て頂ける様、又自室でゆっくりと過ごして頂ける様飲み物の提供し、ご家族様との外出、ホームでの行事毎に参加して頂くなど協力頂いて居ます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の美容室、お墓参り、遠方から息子さん、姉妹の訪問等関係が途切れない様支援しています。	美容室へは家族の対応で通う方や職員が対応している方のほか訪問美容を受けている利用者もおりそれぞれに馴染みを作っています。かつては趣味の工芸を行っていましたが現在は貼り絵等を行っています。知人の訪問があったときは関係が途切れないように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	殆どの入居者様リビングの好きな場所で過ごされて居り、スタッフ声かけにレクリエーション、ラジオ体操等行って居ます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族様からの連絡有り近況伺いや必要に応じて相談、支援を行う様心がけています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中から表情、思い等汲み取り出来るだけ希望に添えるよう努めて居ます。	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の意向は、毎日の会話の中や新年の抱負を語っていただくときに把握し希望に添えるよう取り組んでいると同時に、日常でも寄り添って話をきくように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の好む事、嫌いな事等生活歴を基に把握し本人の思いを大切にスタッフ共有しサービスに努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の心身状態、表情、一人一人を把握しながら穏やかな1日を過ごして頂ける様声かけ支援していますが、気の合わない入居者さん同志言葉のトラブル生じる事多々ありお互いを回避する事も有ります。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケアカンファレンスを行い、3か月毎モニタリングし、本人、ご家族様の意向を最大限取り入れたケアプランを作成し、実践する様努め症状が変化した場合、プランを見直しもその都度行っています。	介護計画は短期目標の3か月ごとに見直しをかけています。日常的に利用者、家族の話を伺い、毎月カンファレンスに取り組み、モニタリングをへてプランを作成しています。生活記録にはSOAP式で記入主観、客観的把握を行って計画作成に役立てています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づき毎日のケアの実践や変化の有る事等、SOAP式を使い個別の生活記録に記載し、申し送りにて情報共有をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様居られない方、遠方の方に関して受診対応、支払い代行、買物支援等行い柔軟な支援を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年入居者さん希望の回転寿司への外出、ふれやか祭り、中学校の介護研修、ボランティアの受け入れ等楽しむ事が出来る支援を継続しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回内科訪問診療を受けている方4名、訪問歯科(7名)定期健診を受けている、箸変生じた際は、ご家族様に相談の上介護添書持参し受診している、緊急時は管理者が受診対応しています。	週2回の法人の保健師や月1回の往診により健康管理がなされ、事業所と家族が協力しながら受診を行い利用者の安心に繋がっています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的な気づきや情報は管理者へ報告、相談し、保健師が定期的に健康管理を行い情報共有している又訪問看護来館時はその方の状況をお伝え相談し、受診の際細かく症状を主治医へ報告しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院治療必要になられた際は、常に本人の状況を知る為面会を頻回に行い、主治医から状態説明受けご家族様と相談し早期退院が出来る様支援しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、看取りに関しての指針は整備している為、契約時に説明し対象と成る入居者は常に主治医、家族様の意向、保健師と相談するなど支援しています。現在までの看取り介護者は2名です。	入居時に重度化、終末期の看取りについて指針をもとに説明し理解を得ています。心境の変化や状態が悪化した場合には再度話し合い、確認し同意書を交わし利用者や家族の想いに沿えるよう取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応AEDの使用方法はスタッフ2017年7月スタッフ全員講習を受け習得しているが、実際に使用した事は今の所無く、入居者急変時は管理者へすぐ連絡入れる様にしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練は年2回入居者さんの協力頂き行っていますその内の1回は所轄職員立会の元助言、指導を受けています。夜勤帯スタッフ1人の為避難誘導をシュミレーション行うなどしています。	消防署立会いのもと夜間想定で避難訓練、通報訓練を実施しています。ホコリなどで起こる火災にも気を配りながら掃除を行い、利用者の安全に注意を怠らないように努めています。	災害時の準備はしていますが、地域住民の参加、協力体制の構築を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格、人柄を把握し、気分を損ねない声かけ対応する様配慮しています。	身だしなみへの心配り、利用者一人ひとりの尊厳を守り羞恥心を感じさせないように意識をして、笑顔になるような声かけを行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者さんが自己決定出来る様待っていますが「判らない」「どうしたら良いの?」声が聞かれる事多く、「こうしたらどう?」とアドバイスしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に何かしたいと希望される方は居なく、スタッフ声かけで、散歩、体操、塗り絵、音楽鑑賞、ゲーム等行って1日を過ごして居ます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の洋服選びは本人に任せて居りますが、何日も同じ服の際は声かけ着替えて頂き、下着は毎日取り替える、外出時はその方に有った少しのおしゃれを支援できるよう心掛けて居ります。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在食事の際の盛り付け参加出来る方居なく、テーブル拭き、箸配りをして頂き、入居者さんが一口でも多く食べたいと思える盛り付けの工夫をして居ます。	食事は法人からの配食ではありますが、利用者の希望を聞いて毎週土曜日の夕食には一品添えています。焼肉パーティーや回転寿司での食事、母の日のや誕生日のケーキなどで食べる事が楽しくなるよう取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	出来るだけ食べれる様、個別に食事形態を替えて提供、不足と思われる方には主治医と相談し栄養補助食品で補い、水分制限されている人以外は1500ccを目途に拒否される方には飲みたいもの都度提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に口腔ケア、義歯洗浄行って居ます、自身で歯を磨く事も忘れて居る方には介助し、定期的に訪問歯科受けられる様支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し全介助要する方も日中はトイレでの排泄を支援し、失敗の多い方は時間見てトイレ誘導行う、殆どの方排便後の後始末不十分の為、見守りウオッシュレット、清拭介助させてもらい清潔を保つよう支援しています。	声掛け誘導で出来るだけトイレでの排泄を支援しています。オムツのあて方で利用者が不快にならずに快適に過ごせるよう努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳、冷水提供し、食事も良く噛んで、好き嫌いせず食べて頂く様声かけ出来るだけ、軟下剤に頼らず独歩可能な方には軽運動促、藤部マッサージをする等便秘予防に努めて居ます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴拒否される方以外は週2~3回入浴支援しています、拒否される方、入浴する事で不穩に成られる方は他のスタッフに変わって貰う等声かけにも配慮しています。	週2回から3回、利用者の体調や気分に応じて、湯船に浸かってリラックスして頂いています。拒否の方には時間や職員、利用者一人ひとりにあったアプローチをし入浴を支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間だけでなく日中もうたた寝されている方にはベッドで休む様声かけし休んで頂いています。何時でも気持ちよく休める様、ベッドメイクを忘れず行う様配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状に応じて主治医と相談し、受けた薬は分かり易い様保管し、名前、日時、錠数の確認等Wチェックをその都度行い、誤薬しない様支援しています。スタッフは用途、副作用等理解する様努めて居ます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	タオルたたみ、新聞折り、お茶P詰め、テーブル拭き等出来る方に参加頂き、余暇に希望聞くも何かしたいと言われる方居なく、1週間の余暇を予定し身体を動かしたり、歌を唄ったり気分転換に繋げて居ます。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お盆にはご家族様希望有り2名の方お墓参りに行かれました。お天気の穏やかな日は個別に戸外散歩に出掛けて居りますが、声かけに「行きたくない」話される方も居ります。	天気の良い日は近所の散歩やふれやか祭りの参加、気分が晴れてリフレッシュし楽しめるよう取り組んでいます。家族との外出や希望を聞いて個別外出を行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ここ一年一緒にお買い物に出掛ける少数と成り病院受診の際に買い物する方もいらっしゃいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎ、希望のある方は遠方のご家族に電話を繋げたり都度支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調には常に配慮し、夏の暑い時期はクーラー扇風機、冬季暖房中は湿度保つ為、濡れバスタオル干すなど行っている リビングにはタペストリー、作品等掲示し季節感を取り入れて居ます。トイレ汚染も頻繁に有る為使用後は小まめにチェックし清潔を保っております。	リビングは明るく季節ごとの飾りや行事の写真が飾られています。寛げるソファが置かれゆったりと過ごしています。匂いがなく温湿度にも気を配り、環境が整備された居心地の良い空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者さん殆どの方リビングにて過ごされ、大体の方自分の居場所を決められTVを観たりおしゃべりされて居ります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	身体的状況に合わせてベッドの位置等、御家族と相談の上配置替えさせて頂き見慣れた写真等置き安心して暮らせる様支援しています。	居室には、今まで使っていた家具などが持ち込まれ、それぞれが自分の家で生活しているように配置し、居心地良く安心して暮らせるように支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内バリアフリーと成って居り、歩行不安定な方は手すり使用、独歩可能な方ゆっくり廊下歩行され車椅子の方自走運動されております。		